

平成筑豊鉄道における運賃改定について

平成筑豊鉄道株式会社では、伊田・糸田・田川線における旅客運賃を下記のとおり変更する予定ですので、お知らせします。

今後、国土交通省九州運輸局に鉄道事業の旅客運賃上限変更に関する認可申請を行う予定です。

1. 改定後の駅間旅客運賃(予定)

別紙「駅間旅客運賃表」のとおり

※ 平均値上率は、普通運賃、通勤定期、通学定期ともに約20%

2. 申請理由

当社は、2009年4月実施の運賃改定以来、消費税率の引き上げによるものを除き、運賃を変更することなく、安全・安心な輸送体制の維持を最優先としつつ、様々な経営努力を続けながら、輸送サービスを提供してまいりました。

しかしながら、少子化やモータリゼーションによる社会環境の変化などにより、利用客数は1992年度の342万人をピークに減少し、赤字経営が続いている状況です。

当社としましては、これまで、沿線ガイドの作成や乗車体験イベントなどの実施、沿線の温泉施設との連携などにより集客に努めてまいりました。さらに、厳しい経営状況を打開するための新たな事業として、2009年度から門司港レトロ観光列車の運行を、2019年3月には観光レストラン列車「ことこと列車」の運行を開始し、2019年8月には約16年ぶりの新駅となる「令和コスタ行橋駅」を開設するなど、利便性及び収益の向上に取り組んでまいりましたが、経営状況の大きな改善には至っていない状況です。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類となったことやインバウンドの増加などにより国内では公共交通機関の利用者数の大きな回復傾向が見られる中で、当社の2023年度の利用客数は124万人とピーク時の約3分の1にまで減少し、2024年度も利用客数は前年度比0.7%増と伸び悩んでおり、今後、コロナ禍以前の水準まで回復することも困難であると見込んでいます。

加えて、老朽化が進行した設備の修繕・更新に要する経費の増加や、最低賃金の引き上げによる人件費の上昇、燃料価格や資材仕入等の価格上昇などにより、今後も極めて厳しい経営状況が続くことが見込まれます。

平成筑豊鉄道の今後のあり方については平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会において検討が進められていますが、施設の老朽化対策や社員の賃金水準の維持による働き手の確保など鉄道事業運営に必要な対応を行うことにより、輸送の安全確保及び旅客サービスの維持・向上を今後も継続するには運賃改定による収支の改善が不可欠と判断し、今般の改定を行うものです。

3. 実施時期(予定)

2025年10月